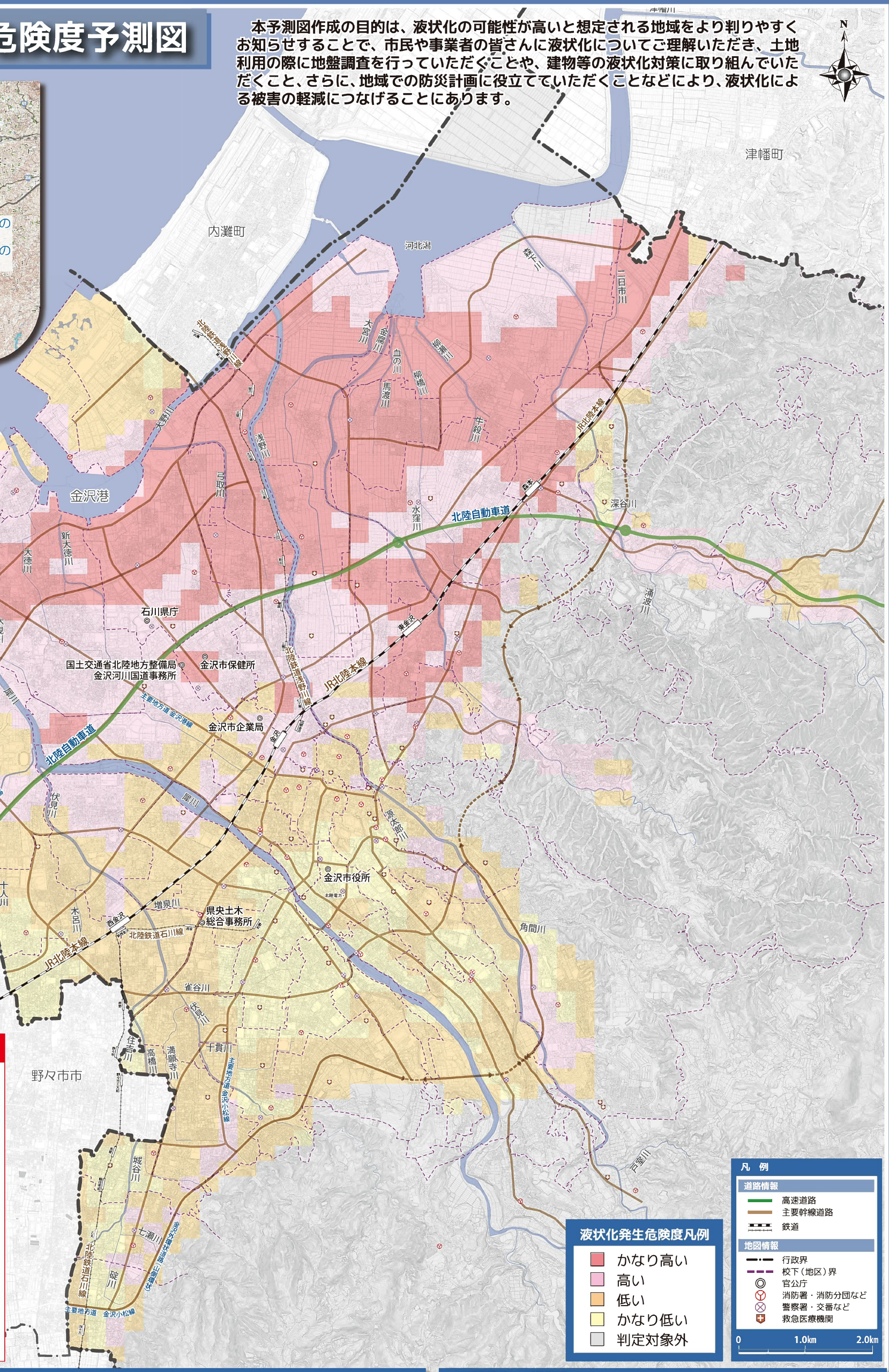
金沢市 液状化 危険度予測図

本予測図作成の目的は、液状化の可能性が高いと想定される地域をより判りやすくお知らせすることで、市民や事業者の皆さんに液状化についてご理解いただき、土地利用の際に地盤調査を行っていただくことや、建物等の液状化対策に取り組んでいただくこと、さらに、地域での防災計画に役立てていただくことなどにより、液状化による被害の軽減につなげることにあります。



◆ご利用の注意◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

※本予測図は、森本・富樫断層帯による地震（震度６弱～６強）の発生に伴う液状化危険度の予測を、250ｍメッシュで示したものです。

※地盤改良などにより、液状化対策が行われている所は、この予測図の限りではありません。

※凡例中の危険度が「かなり高い」区域でも、液状化の発生率は 10～ 30%程度と一般的に言われています。

※250ｍメッシュ内の代表的な地盤データに基づいて危険度予測を行っているため、そのメッシュの中には、液状化の起こりにくい地盤が含まれている場合があります。

液状化現象とは？

地震によって、水分を多く含んだ砂の層が、液体のように流動化する現象のことです。地下水位が高く、締め固まっていない緩い砂の層がある場所で、激しい揺れが発生した場合に起こります。

①地震発生前

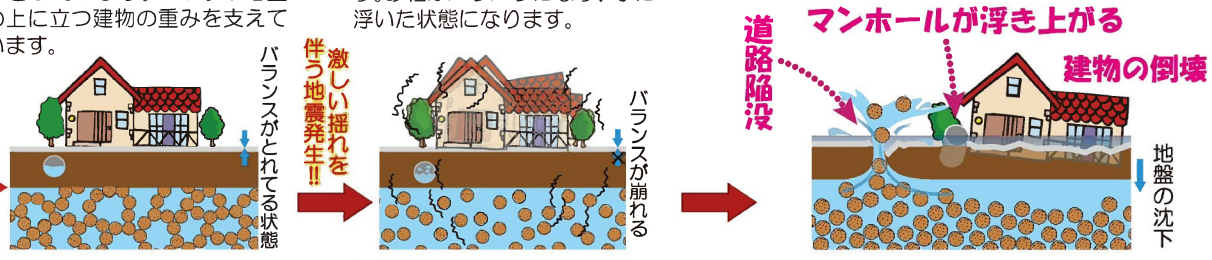
地震発生前、砂の層は水で満たされており、砂粒同士がかみあわさっています。この砂が地盤の上に立つ建物の重みを支えています。

②地震発生時

地震の揺れにより、砂粒同士が移動し、かみあわせがはずれます。砂粒がバラバラになり、水に浮いた状態になります。

③地震発生後の被害

バラバラになった砂粒が沈むことにより、砂粒の回りにあった地下水の水圧が急に上昇し、弱い裂け目を見つけて土砂とともに地上に噴き上がります。地盤の中の支えを失った建物が土の中に沈み込んで倒壊したり、地割れや噴砂、道路の陥没、中空のマンホールが浮き上がるなど、被害が発生します。

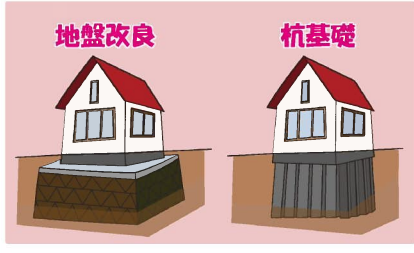


◆耐震化の重要性！

住まいの耐震化は、被害をより小さくするために最も効果的な対策です。耐震診断・耐震改修工事等、効果的に実施しておきましょう。

◆液状化に備えて

戸建住宅など比較的小規模な建物に有効な液状化対策として、地盤が液状化しにくいように地盤改良をする、杭基礎をするなどがあります。



◆地震に備え、安全対策！

地震による死亡・ケガの主な原因は、地震直後の家具の転倒、建物倒壊による圧死といわれています。皆さんの生命や財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。

※この地図は野々市市長の承認を得て、同市作成の都市計画基本図（縮尺1/2,000）を使用して作成したものである。（平成25年2月7日承認　都第524号）
※この資料は津幡町長の承認を得て、同町発行の2,500分の1都市計画基本図を使用し、調製したものである。（承認番号）平成25年2月7日津都建発第1501号
※この地図は、白山市長の承認を得て、同市発行の縮尺2,500分の1及び10,000分の1都市計画基本図を使用して作成したものである。（平成25年2月8日承認都計第303号）
※この地図は、内灘町長の承認を得て、同町発行の縮尺2,500分の1都市計画を使用して作成したものである。（承認番号）内都建第1308号